

Organic Challenge Since 1997

自然資本の恵みに感謝し、 地域の生業を守る

ー 農業から考える30by30とネイチャーポジティブ ー

土・水・生物・気候。
自然資本なくして、農業は成り立たない。

株式会社金沢大地 井村辰二郎

応援してね！日本の有機農業

農地は、食料生産の場であり、生きものの生息地



食料をつくる × 生物多様性を
育む

有機農業／化学肥料・化学合成農薬の削減／
水田・畦畔・水路を含む生息環境の保全

農業がつくる環境は、人だけのものではない。



★ご協力いただいている専門家のみなさま

- ・中村 浩二さん: 金沢大学 名誉教授
- ・白川 郁栄さん: 日本野鳥の会 石川 代表
- ・野村 進也さん: いしかわ自然学校 インストラクター・石川県希少野生動植物保全推進員
- ・中田 勝之さん: 白山自然保護センター
- ・中野 真理子さん: 石川県立自然史資料館 副館長

オーガニックファーム〈金沢大地〉自然共生サイト 『生き物モニタリング調査イベント』

第1回: 2025年10月11日(土) ※キックオフ・昆虫観察中心

第2回: 2026年5月17日(日) 「コウノトリ・野鳥観察の巻」

第3回: 2026年8月22日(土) 「昆虫観察の巻」

- 📌 野外作業: コウノトリ・野鳥・昆虫類・両生類・植物の観察・採集など
- 📌 野外採集した生きもの・植物の整理・同定と質疑応答
- 📌 〈金沢大地たなつや〉のおむすび・いなり寿司を食べながら意見交換 & 歓談

コウノトリが暮らせる河北潟、トキが暮らせる能登



有機農業 × 自然共生サイト
コウノトリの営巣・採餌



江（え）の設置

田んぼの中に、トキの餌となる水生生物の住処となる湿地状の深みを作ること。



魚道（ぎょどう）の設置

魚や小さな水生生物が、田んぼと水路を行き来できる水の通り道を作ること。



水張（みずはり）水田の設置

豊かな生態系を作るため、休耕田などに年間を通じて常に水を張ること。（ビオトープ）



< 5割以上削減 >



< 3割以上削減 >



能登地域トキ放鳥 PR
キャラクター のとっきー

「トキめく能登の未来米づくり」江・魚道／水張り水田・冬期湛水／畦畔除草剤不使用／生き物調査

環境負荷を減らす農業から、生物多様性を育む農業へ。

自然の価値を、企業・株主へつなぐ



TREホールディングスと金沢大地は、石川県能登半島の地域再生と農業振興を目的として、業務提携を締結しています。
このお米は、両社が協働して取り組む、生物多様性の保全と環境保全型農業の推進の一環として、30by30認定サイト(豊かな自然と生物多様性を未来へつなぐため、2030年までに陸と海の30%以上を保全する国際目標に基づき認定された地域)で栽培されたオーガニック米を、株主の皆様へお届けするものです。
これからも、地域農業の振興と能登半島の復興、そして豊かな自然環境を次世代へつなぐ取り組みを、両社で力を合わせて推進してまいります。

「コウノトリが育む田んぼから」

私たち「金沢大地」グループは、
石川県金沢市周辺や奥能登地域で、自然と共生するお米づくりに取り組んでいます。
このお米は、オーガニックファーム金沢大地が栽培した有機JAS認証米です。
田んぼは、コウノトリを育む農地保全活動が評価され、
環境省の「自然共生サイト」に認定されたエリアにあります。
多様な生きものが息づく田んぼで育ったお米を、皆さまの食卓へ。
自然の恵みに感謝しながら、これからも持続可能な農業を続けてまいります。

農場主 井村辰二郎

井村さんのオーガニック米
ひやくまん穀

名称	有機精米
原料玄米	産地 品種 産年
	単一原料米
	石川県産 ひやくまん穀 R8 産年
内容量	5kg
精米時期	2026年
販売者	株金沢大地 金沢市八田町東9番地 電話076-257-8818

JAS 有機 JONA JK120821PC 精米

ひやくまん穀



TRE HOLDINGS × 金沢大地

自然共生サイトで育った有機米を
株主優待として全国へ。

自然共生サイト

有機農業・有機米

企業との協働

株主・消費者へ

農産物とともに、30by30と生物多様性の価値を
届ける。

自然を守る農業を、どう持続可能にするか

気候変動

中干し期間延長 / バイオ炭



GHG削減を定量化



J-クレジット等



経済的インセンティブ

生物多様性

有機農業 / 餌場づくり / 生息環境の保全



自然共生サイト・地域認証



その価値を、どう経済に結びつけるか？

直接支払／企業支援／調達・購入／金融評価 …

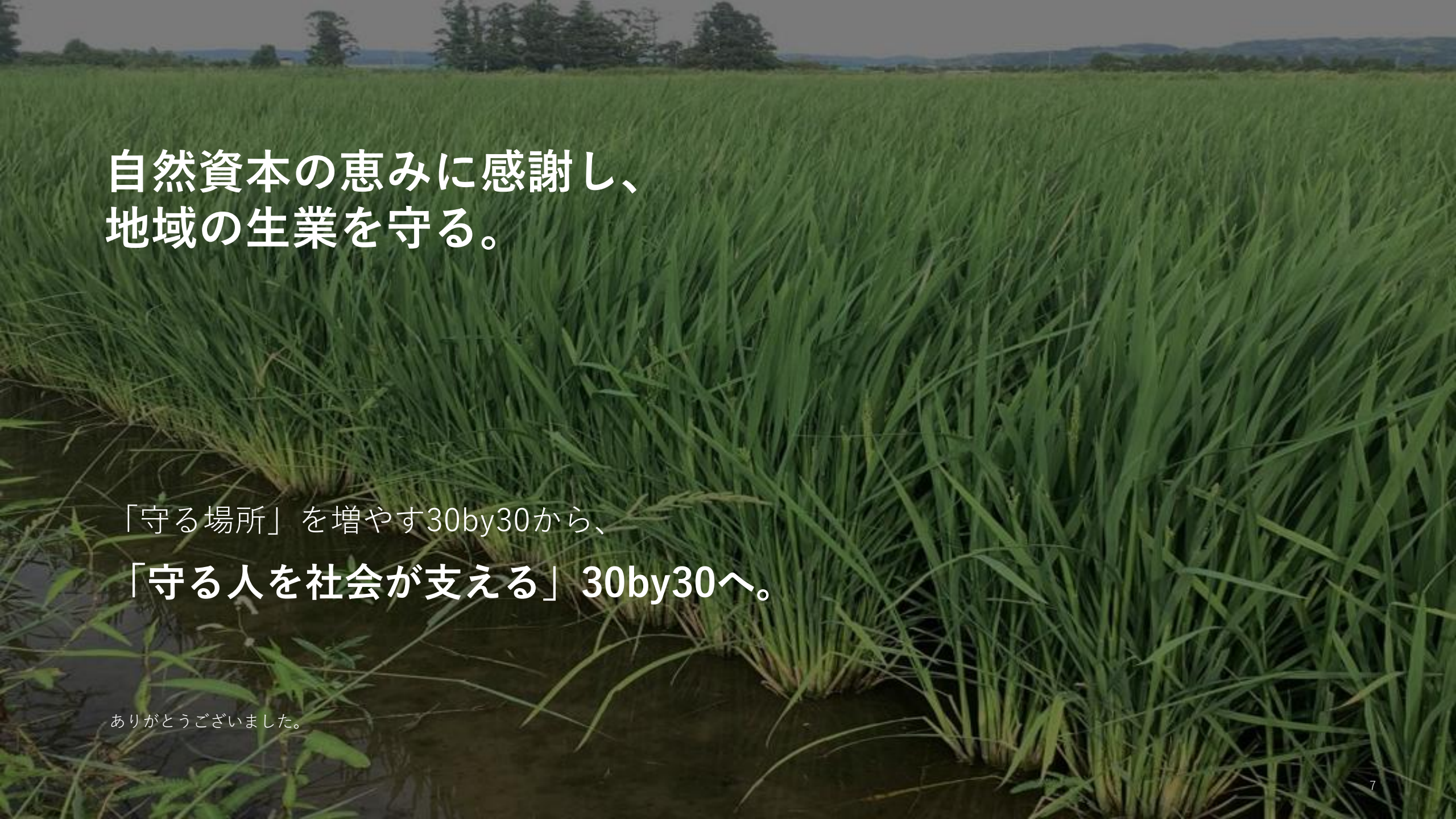
カーボンだけでなく、バイオダイバーシティにもインセンティブを。

2030年 — 自然資本を守る生業を、社会全体で支える

ネイチャーポジティブを、経済の循環へ。



自然を守る → 社会が価値を認める → 経済価値が地域へ戻る → 生業が続く → 自然が守られる

A wide-angle photograph of a lush green rice field. The rice plants are in the foreground and middle ground, growing densely together. The background shows a line of trees and distant hills under a grey, overcast sky. The overall tone is somber due to the grey sky, but the green of the rice provides a strong contrast.

自然資本の恵みに感謝し、
地域の生業を守る。

「守る場所」を増やす30by30から、
「守る人を社会が支える」30by30へ。

ありがとうございました。